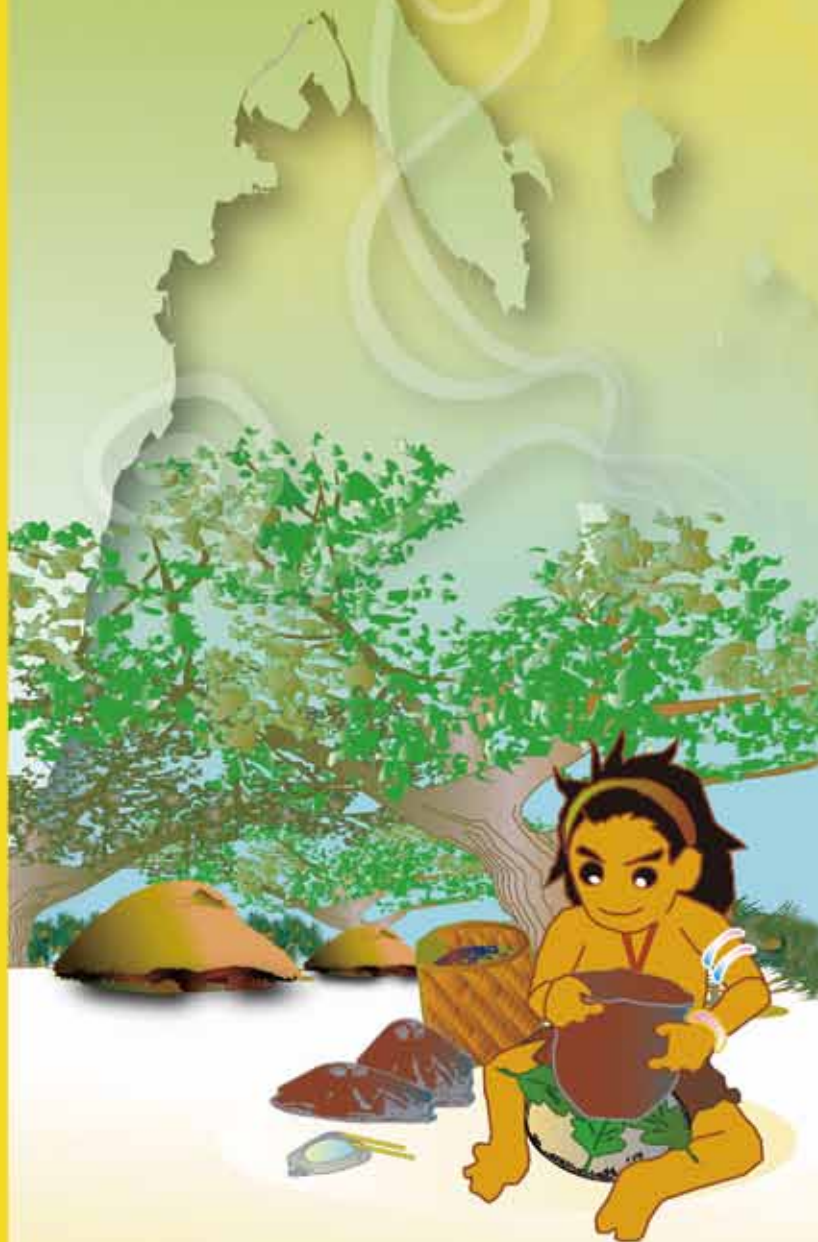


うるま市の 遺跡



沖縄県うるま市教育委員会

〒904-2292

沖縄県うるま市みどり町一丁目1番1号

電話：098-923-7182

発行：2007（平成19）年 7月15日

改訂：2017（平成29）年 12月28日

主な文化財関連年表

年表 …… 1

うるま市全体図 …… 2

石川 …… 5

伊波 東恩納・山城 …… 9

安慶名 天願・昆布・宇堅 …… 13

具志川東 具志川・田場・上江洲・仲嶺 …… 17

高江洲 江洲・大田 …… 21

具志川 兼箇段・赤道 …… 25

与勝 南風原・平安名・屋慶名・藪地島 …… 29

与勝2 平敷屋・饒辺 …… 33

平安座島・浜比嘉島 …… 37

宮城島・伊計島 …… 41

津堅島 …… 45

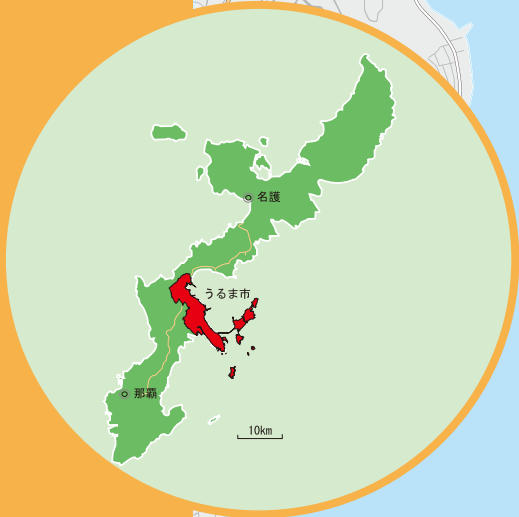
沖縄諸島と奄美諸島の土器のうつりかわり …… 49

参考文献 …… 51

遺跡名索引 …… 52

12000年前 7000年前	旧石器時代	うるま市では現在、旧石器時代の遺跡、人骨は確認されていない。	
	縄文時代	与那城藪地島の藪地洞穴遺跡でヤブチ式土器が使われる。	
3500年前		石川の伊波貝塚で伊波式土器が使われる。 (古我地原貝塚、天願貝塚、地荒原貝塚、平安名貝塚)	
2500年前		宮城島(シヌグ堂遺跡、高嶺遺跡)、石川東恩納西原、美川原など金武湾一帯の琉球石灰岩台地上に集落が展開される。 伊計島の仲原遺跡で仲原式土器が使われ、集落が展開する。	
2000年前	弥生時代	宇堅貝塚で鉄製品が使われる。 平敷屋トウバル遺跡や金武湾一帯の沿岸でいわゆる「貝の交易」が行われる。	
	平安時代	具志川グスク崖下で弥生式土器が使われる。 具志川アカジャンガー貝塚でアカジャンガー式土器が使われる。	
1000年前			
500年前	グスク時代	勝連城跡・安慶名城跡・伊波城跡など各地にグスクが築かれ按司(アジ)が現れる。中国、朝鮮、日本、東南アジアとの交易を行う。 1458年、阿麻和利の乱。 喜屋武グスクが烽火台として使用される。 1551年、数明親雲上が神歌頭となる。 1581年、東恩納ノ口、王府より辞令書を賜る。	
		近世	各地に「間切(まぎり)」が設置され、「大田坂(ウフタバ)」などの「宿道(すくみち)」が整備される。 兼箇段で兼箇段ジョーミーチャー墓、伊波では伊波ヌール墓がつくられる。 1710年、マーラン船の建造がはじまる。 1712年、蔡温が勝連間切神屋地頭職となる。 1727年、この年より一年間、平敷屋朝敏が平敷屋に滞在する。 1743年、東恩納番所の廃止。
			1200年前
600年前	近現代	明治時代以降、屋取(ヤードウイ)集落の人口が急増する。 1904年、鳥居龍蔵氏「チヌヒンチャ貝塚」、「天願貝塚」発見。 1920年、大山柏氏による伊波貝塚の発掘調査。 1936年、勝連平安名「ワイトウイ」が人力で開通する。 津堅島新川・クボウグスク周辺陣地壕群が構築される。	
	戦前		
戦後	現在	1945(昭和20)年、沖縄戦の最中、具志川グスクで集団自決が行われる。また、嘉手苅のヌチシヌジガマ(ティラガマ)では住民が全員捕虜となる。 その後、沖縄は米軍統治下におかれる。 戦後復興の下、沖縄諮詢会堂、東恩納博物館、石川部落事務所にのちの旧石川市役所がおかれる。 1959(昭和34)年、宮森小学校ジェット機墜落事故が発生する。 1972(昭和47)年、沖縄が日本へ復帰する。 2005(平成17)年4月1日、具志川市・石川市・勝連町・与那城町が合併し、新市「うるま市」が誕生する。	

うるま市 全体図



1km

石川



伊波丘陵

石川集落の南西、伊波集落の北にある伊波丘陵には、多くの遺跡が分布しています。

縄文時代中期～後期頃（沖縄貝塚時代前期頃）の遺跡として「古我地原貝塚」や「伊波貝塚」があります。また、縄文時代晩期系（沖縄貝塚時代中期）の遺物散布地も確認されており、縄文時代中期・後期・晩期の集落があったと考えられています。

同地には、「伊波城跡」や「伊波城跡北西遺跡」などのグスク時代の遺跡も発見されています。



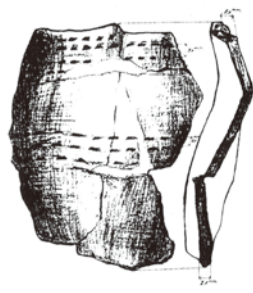
伊波丘陵

伊波貝塚（国指定史跡）

1920（大正9）年、大山 柏氏によって発見された縄文時代後期（沖縄貝塚時代前期）を代表する貝塚です。この貝塚からは、大量の土器・石器・骨・貝製品が見つかっています。ここから出土した土器は「伊波式土器」と名付けられました。



伊波貝塚



伊波式土器のスケッチ

（大山 柏：琉球伊波貝塚発掘調査報告より）



伊波式土器（レプリカ）

古我地原貝塚

沖縄自動車道建設に伴って行われた沖縄県教育委員会の分布調査によって発見、調査が行われた縄文時代中期（沖縄貝塚時代前期）の貝塚です。貝塚からは、竪穴式住居跡や集石炉が見つかり、縄文時代中期の面縄前庭V式土器や縄文時代後期の伊波式土器、奄美系土器も出土しました。また、骨製の装飾品や石器、貝殻や動物の骨なども多数発見されています。



古我地原貝塚出土の土器（沖縄県教育委員会蔵）



地図記号： 遺跡 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 湧水・井戸（カー）

伊波城跡（県指定史跡）

伊波城は、城壁が「コ」の字形（単廓式）で、自然石の積み上げ（野面積み）により築かれた城です。13世紀に伊波按司によって築城されたと伝えられています。

城内からはグスク時代の土器や外国産陶磁器などのほか、先史時代の土器なども検出されており、このことから先史時代から人々の居住地であったことが明らかになっています。

5代目の伊波按司（1500年代）が首里へ移転したため、廃城になったといわれ、現在は御嶽として崇められています。



伊波城跡

伊波城跡北西遺跡

国道329号線石川バイパス工事の際に発見され、調査が行われた遺跡です。

縄文時代後期（沖縄貝塚時代前期）の伊波式土器、弥生～平安並行期（沖縄貝塚時代後期）の土器、グスク土器が出土しています。

また、14～15世紀頃の白磁、16～17世紀頃の染付・青磁といった外国産の輸入陶磁器や16世紀～近代の本土産の磁器、須恵器、沖縄産の陶器、羽口、石器、ウマの骨などもみつかっています。



伊波城跡北西遺跡

伊波

東恩納
山城



イナガミムイ古墓群

国道329号の石川バイパス沿いにある南北に細長い形をした小さな丘をイナガミムイと呼んでいます。この丘の西側斜面には、伊波按司の墓をはじめ、岩陰を利用した墓がいくつもあります。



伊波按司の墓

伊波仲門門中が管理する墓で、同門中の始祖（伊波按司）が葬られていると伝えられています。伊波按司の子孫は中頭や島尻方面へと散らばり、沖縄各地には伊波按司一族に関わる伝承が残されています。

現在も子孫など多くの参拝者が訪れています。



伊波按司の墓

伊波原遺跡

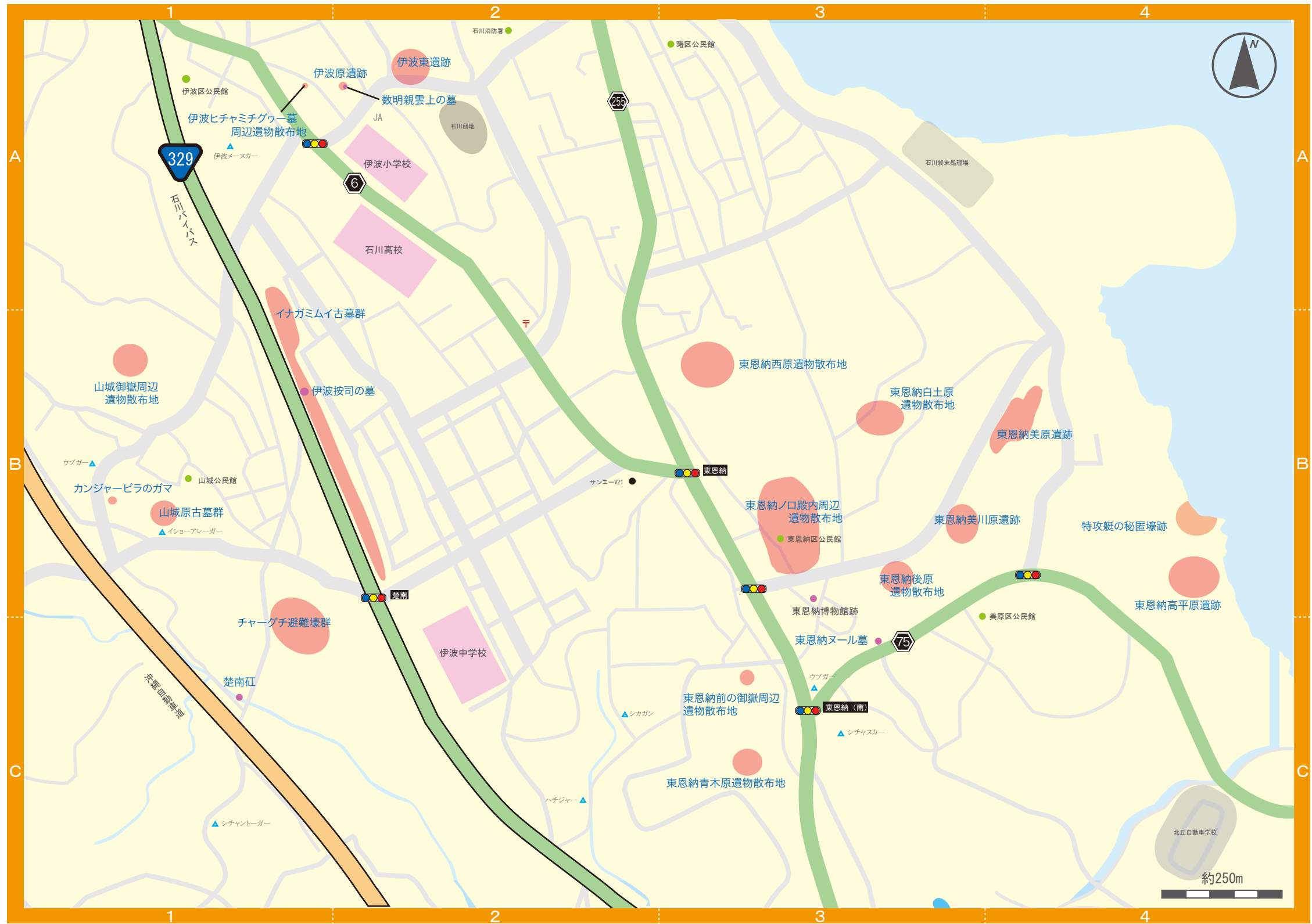
遺跡付近は住宅が密集しており、その中に大きな岩が2つ並んでいます。東側の岩陰には、第二尚氏王代初期の歌人として有名な数明親雲上の墓があります。

この一帯からは、土器や石器、ウミナなどの貝殻が見つかっています。

遺跡の年代は現在のところ不明です。



伊波原遺跡・数明親雲上の墓（左上）



地図記号： 遺跡（赤） その他の文化財（紫） 公共施設（緑） 学校（黄） 湧水・井戸（カー）（青）

東恩納美川原遺跡

この遺跡は、縄文時代後期～晩期（沖縄貝塚時代前期～中期）にかけての遺跡であると考えられています。



東恩納美川原遺跡

出土品には、大山式・室川式・室川上層式・カヤウチバンタ式・宇佐浜式土器などの縄文時代後期～晩期の土器があり、グスク土器も少量ですがみつかっています。また、石器・貝製品・骨製品なども出土しています。

東恩納ヌール墓

初代からの東恩納ヌールが埋葬・納骨されているお墓です。

1957（昭和32）年10月24日、米軍ナイキ基地設置のため青木原に移される際に、12基の石棺と12基の厨子壺が確認されました。



東恩納ヌールのマガタマ



東恩納ヌール墓

その後1989（平成元）年頃、遺骨は元の墓に戻されました。

現在、東恩納ヌールの継承は途絶えています。

東恩納博物館跡（市指定史跡）

戦後、米軍に沖縄の文化・民俗を理解させることを目的として、当時の米軍政府教育担当のハンナ少佐が焼け跡から蒐集した陶器、彫刻、織物、漆器などを展示し1945（昭和20）年8月、東恩納に開設されました。

1953（昭和28）年、首里郷土博物館と統合されて「首里博物館」となり、これが現在の沖縄県立博物館の母体となっています。



安慶名

天願
昆布
宇堅



宇堅貝塚

宇堅ビーチ後方、南北約2kmに広がる貝塚群で、弥生時代前期頃（沖縄貝塚時代後期）の遺跡です。

ここからは、多数の弥生式土器が出土しています。また、板状の鉄斧や銅製の鏡片・漢式三角鏃・ガラス製の小玉なども発見されています。なかでも、板状の鉄斧や漢式三角鏃は全国でもその出土が、2、3例しかない注目される資料です。

これらの出土品は、弥生式土器と共に九州から持ちこまれたものです。そのため、この貝塚は弥生文化との交流を考える上で重要な遺跡の1つとなっています。



出土したイモガイ



漢式三角鏃



銅鏡片



貝製品



イモガイの指輪



地図記号： 遺跡 ほかの文化財 公共施設 学校 ▲ 湧水・井戸（カー）

安慶名城跡（国指定史跡）

14世紀頃に安慶名大川按司によって築かれたと伝えられ、自然の断崖と急斜面を巧みに利用して作られた山城です。

城の形態は、外側と内側に二重の石垣を巡らす県内では珍しい輪郭式で、自然の岩を見事に利用して内郭の門が作られています。城の北側を流れる天願川を別名「大川」と呼ぶことから、「大川グスク」とも称されています。



隅原遺跡

隅原遺跡はA～Gの7地点からなる縄文時代中期～弥生・平安並行期（沖縄貝塚時代前期～後期）にかけての遺跡です。

A・B地点からは、遺物は石鏃やくびれ平底土器、遺構は柱穴の跡などがみつかっています。C・D・G地点からは、主に奄美の面縄東洞式～面縄前庭式土器が発見されています。D地点からは、岩陰を利用した墓が6基みつかり、人骨も出土しています。なお、遺跡は長年の採石工事などにより消滅しています。



隅原遺跡



天願貝塚（崖下）と天願グスク（山手）

天願貝塚

天願の米軍基地（キャンプ・コートニー）南側に位置する縄文時代後期（沖縄貝塚時代前期）の貝塚です。貝塚からは、奄美の面縄東洞式土器や沖縄の伊波式土器がみつかり、石を磨いて作った石斧も発見されています。

天願貝塚の隣にある小高い丘には、別名「ツチグスク」と呼ばれる天願グスクがあります。

具志川東

具志川
田場
上江洲
仲嶺



アカジャンガー貝塚遠景

アカジャンガー貝塚

弥生時代後期頃（沖縄貝塚時代後期）の遺跡で、貝塚の名前は近くに「アカザンガー」と呼ばれる泉があることに由来しています。

ここから出土した土器は、「アカジャンガー式土器」と命名されています。また、伊江村の具志原式土器や、主に南九州に分布する山ノ口式土器なども出土しています。ほかにも鹿の角やサメの歯、貝で作られた製品、竪穴遺構などが発見されています。



地図記号： 遺跡 ほかの文化財 公共施設 学校 湧水・井戸（カー）

具志川グスク

平安時代後期から鎌倉時代（沖縄貝塚時代後期終末期～グスク時代）にかけての遺跡で、同名のグスクが久米島町と糸満市の2ヶ所にあり、海岸に突き出たグスクという点で共通しています。

このグスクからは、掘立柱の住居跡やグスク時代の土木工事の跡を確認することができ、また多くの土器、輸入陶磁器が見つかっています。



具志川グスク遠景



具志川グスク出土の貝付

地荒原貝塚

縄文時代中期～晩期頃（沖縄貝塚時代前期～中期）の遺跡です。



骨製かんざし



サメ歯製ペンダント出土の様子

この貝塚からは、多くの出土品が見つかっています。特に骨や貝で作られた製品は内容が変化に富んでおり、なかには獣の形とみられる装飾品もあります。残念ながら1985（昭和60）年の発掘調査終了後に完全に消滅しました。

田場小学校南方遺跡

縄文時代晩期頃（沖縄貝塚時代中期）の遺跡です。この遺跡からは、石を敷き詰めた遺構が17基みつかっています。いずれもこぶし大から親指大の石を密に敷き詰めたもので、丸形・楕円形・方形・隅の丸い方形のものが確認されています。

出土したものは、室川上層式土器・宇座浜式土器の範囲に含まれる土器が多数あり、石斧なども発見されています。



田場小学校南方遺跡



竪穴遺構と柱穴の様子



土器の出土状況



貝製品

高江洲

江洲
大田



喜屋武グスク

別名、「仲嶺マープ」「火打嶺」とも呼ばれていますが、地元では「喜屋武マープ」と呼んだ方がなじみ深いです。標高が高く、およそ110mの台地に位置しています。

このグスクは、昔火立があったところでもあります。これにより、本グスクは「火打ち城」とも呼ばれています。

グスクからは、掘立柱の住居跡が見つかっています。出土品には貝塚時代後期末の土器・グスク土器・須恵器・中国製の陶磁器などがあります。



掘立柱の住居跡



中国製の青磁



地図記号： 遺跡 ① その他の文化財 ② 公共施設 ③ 学校 ④ 湧水・井戸（カー）

苦増原遺跡

縄文時代晩期頃（沖縄貝塚時代中期）の遺跡です。ここからは、屋外炉を伴う竪穴住居跡や、貯蔵穴が見つかっています。

貯蔵穴の中には、イタジイと思われる炭化した植物が、石斧や土器とともに集まった状態で発見されました。



苦増原遺跡出土の喜念Ⅰ式土器



江洲グスク

このグスクは、標高100mの丘にあり、その周辺には岩陰を利用した古い墓が多く、江洲按司と江洲ノロ（祝女）の墓が西側の中腹にあります。ここからは、グスク土器・須恵器・中国製の磁器などがみつかっています。

『おもろさうし』に「ゑすのもりくすく、ゑすのつちくすく」とあり、高倉がいくつも立ち並んだ情景などが謡われています。

大田坂（市指定史跡）

この坂道は今から約200年前にあかばんだ掟と玉城親雲上と上門小ビニーの3者の計画で設計・施工され、地元や近隣の賦役や資材の協力を得て完成したと伝えられています。

幅員2～3m、全長300mにおよび、石灰岩を敷き詰めた石畳で、具志川集落に番番があった頃、首里王府から各間切（現在の市町村）間の伝達に利用され、宿道として整備された歴史の道です。





兼箇段ジョーミーチャー墓 (市指定史跡)

墓の構造は、山の中腹から下にかけて削り落として横穴式にくり抜いたもので、架橋の下に大小3つの小さな前門があります。いつ頃築造されたか明らかではありません。

この墓には「兼箇段大主」「テピーシ」「根人」「キガン」「根神」「祝女」「アジガユ」「門ミーチャーカシラユ」「ナカヌユ」などの遺骨が崇められているとのこと。

兼箇段集落ではこれらの霊を慰めるため、1963(昭和38)年旧5月に墓の蓋石を新調して、ここに祀る個人の名を刻記し、後世に伝えるとともに、外観を整備して現状の維持につとめています。



調査前の墓室内の様子



確認された厨子甕



大門森古墓群

大門森は、県営赤道団地の脇にある小高い丘のことで、その中腹には、横穴式の墓(掘込墓)があります。1974(昭和49)年に、貴重な文化財の1つとして確認されました。その後、1985(昭和60)年に赤道の銘苅門中から依頼があり、調査が行われました。

その結果、最も古い康熙19(1680)年の厨子甕(骨壺)を確認することができました。



大門森古墓群



大門森下の碑



確認された厨子甕

この調査では、西側の2基の墓を調査しましたが、その周辺にある同様な墓には、「康熙四十三年」と記された石碑が2基建てられています。

兼箇段グスク

グスク時代の遺跡で、標高約85mの丘に立地しており、丘頂上と中段に2つの広場があります。出土品は、頂上と斜面に散らばっており、それらの中には、グスク土器、中国製の青磁、獣や魚の骨、貝殻などがみついています。



兼箇段グスク

与勝

南風原
平安名
屋慶名
藪地島



かつれんじょうあと
勝連城跡 (国指定史跡／世界遺産)

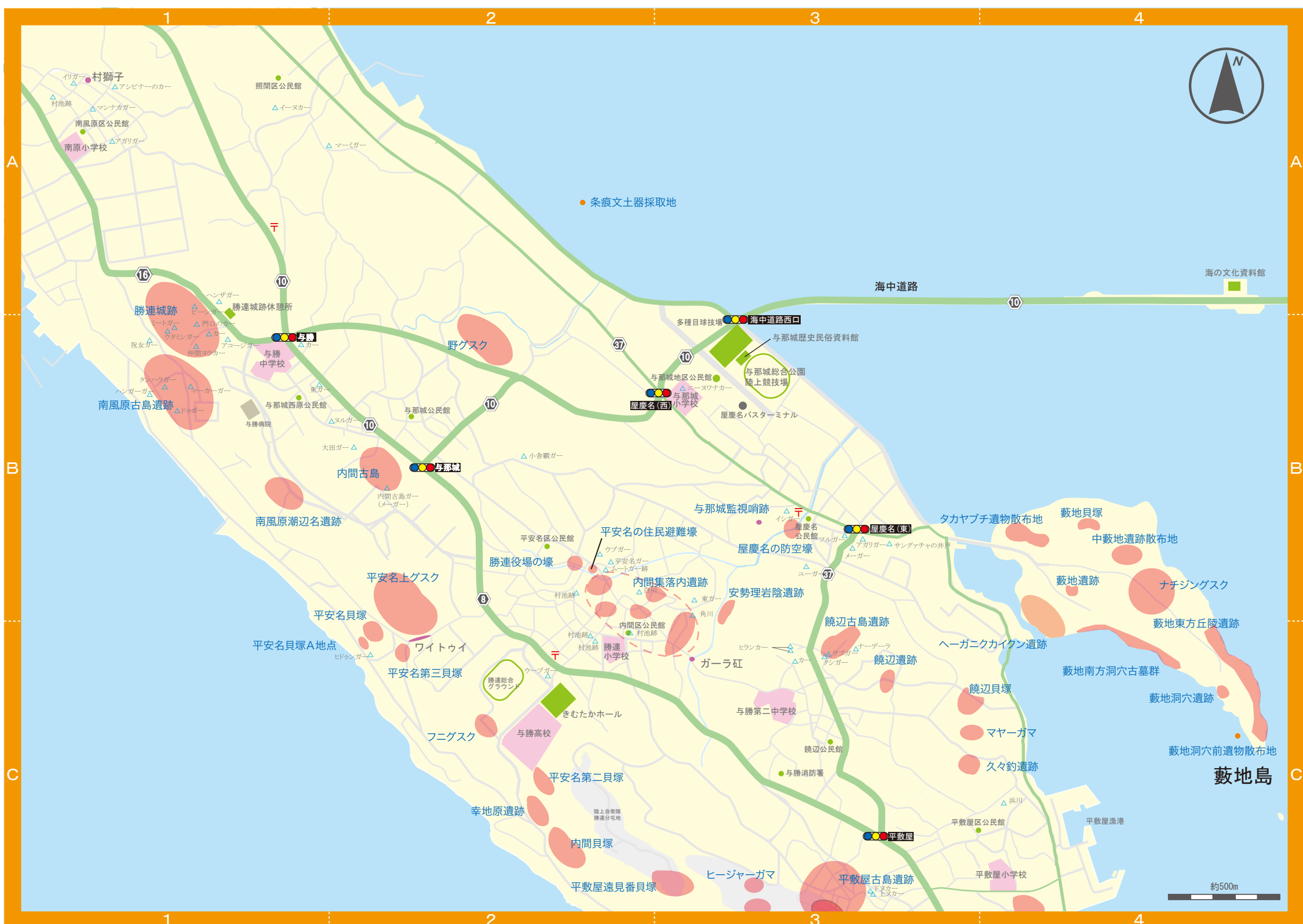


勝連城跡

勝連半島の根元部分の丘陵上に築かれており、最高部の一の曲輪に登ると東海岸一帯を眺望することができます。

勝連城は歴代の城主が海外との交易を活発に行い栄えていました。城跡からは中国産の高価な陶磁器が多く出土しているほか、本土産の鎧金具や刀類、東南アジア産の陶磁器なども出土しています。また、本土産の大型の瓦も発見されています。県内のグスクで瓦を使っていたのは勝連城のほかには首里城と浦添城だけです。これらの出土品から当時勝連城が海外貿易の拠点として、琉球で強大な力を持っていたことがうかがえます。

2000 (平成12) 年12月に世界遺産に登録されました。



陶磁器 (白磁・染付)



瓦



骨製の鏃



貨幣

藪地洞穴遺跡 (市指定史跡)



藪地島 (無人島) の海岸近くにある縄文時代早期 (沖縄貝塚時代早期) の洞穴遺跡です。洞穴は住居跡で幅19m、奥行きは4.3mの大きさです。1959 (昭和34) 年に発見、翌年調査が実施されました。その結果、約6500年前の爪形文土器や貝の鏃などが発見されました。沖縄県で初めてこの形の土器が発見されたことから、藪地の地名をとって「ヤブチ式土器」と呼ばれています。



平安名貝塚 (県指定史跡)

平安名集落西方約400mにある縄文時代後期 (沖縄貝塚時代前期) の貝塚です。標高約40mの崖の斜面に形成され、琉球石灰岩の岩間や岩陰に保存良好な遺物包含層があります。1955 (昭和30) 年に発掘調査が行われ、櫛目文様のある平安名式土器をはじめ、狹室式土器・大山式土器のほかに、石製品、骨製品、貝製品などもみつかっています。考古学において、歴史の年代を判断する目録になる遺跡として貴重なことから、翌年、県指定史跡になりました。この遺跡の南側斜面から新たに土器や石器などが発見されましたが、その場所は指定範囲からはずれていることもあり、「平安名貝塚A地点」とされています。



平安名貝塚A地点



南風原古島遺跡

勝連城跡の南東側の斜面地にあるグスク時代の集落跡です。発掘調査の結果、勝連城の麓に広がる集落の石垣の跡が発見され、注目されました。城から分配された陶磁器類が多数出土しています。鉄滓という、鉄を加工する際に出る鉄の屑が集中して出土するところがあり、採集される土器からみて、グスク時代～近世の鍛冶場があった可能性が高いと考えられています。



出土した鉄滓



勝連城跡の麓に広がる南風原古島遺跡

与勝2

平敷屋
饒辺



へしきやふるじま
平敷屋古島遺跡



建物の柱穴の跡

この遺跡は、グスク時代～近世にかけて形成された集落跡です。くびれ平底土器やグスク土器、中国産陶磁器、タイ産土器、鎧、鉄鏃（鉄製のヤジリ）などが出土しています。特に注目されたのは鎧や鉄鏃が発見されたことです。

グスク時代にグスク以外の集落にも鎧や鉄鏃などの武器が存在していることが確認されたことで、石垣に囲まれたグスクと集落とが密接に関わっていることが明らかになりました。



発掘調査の様子

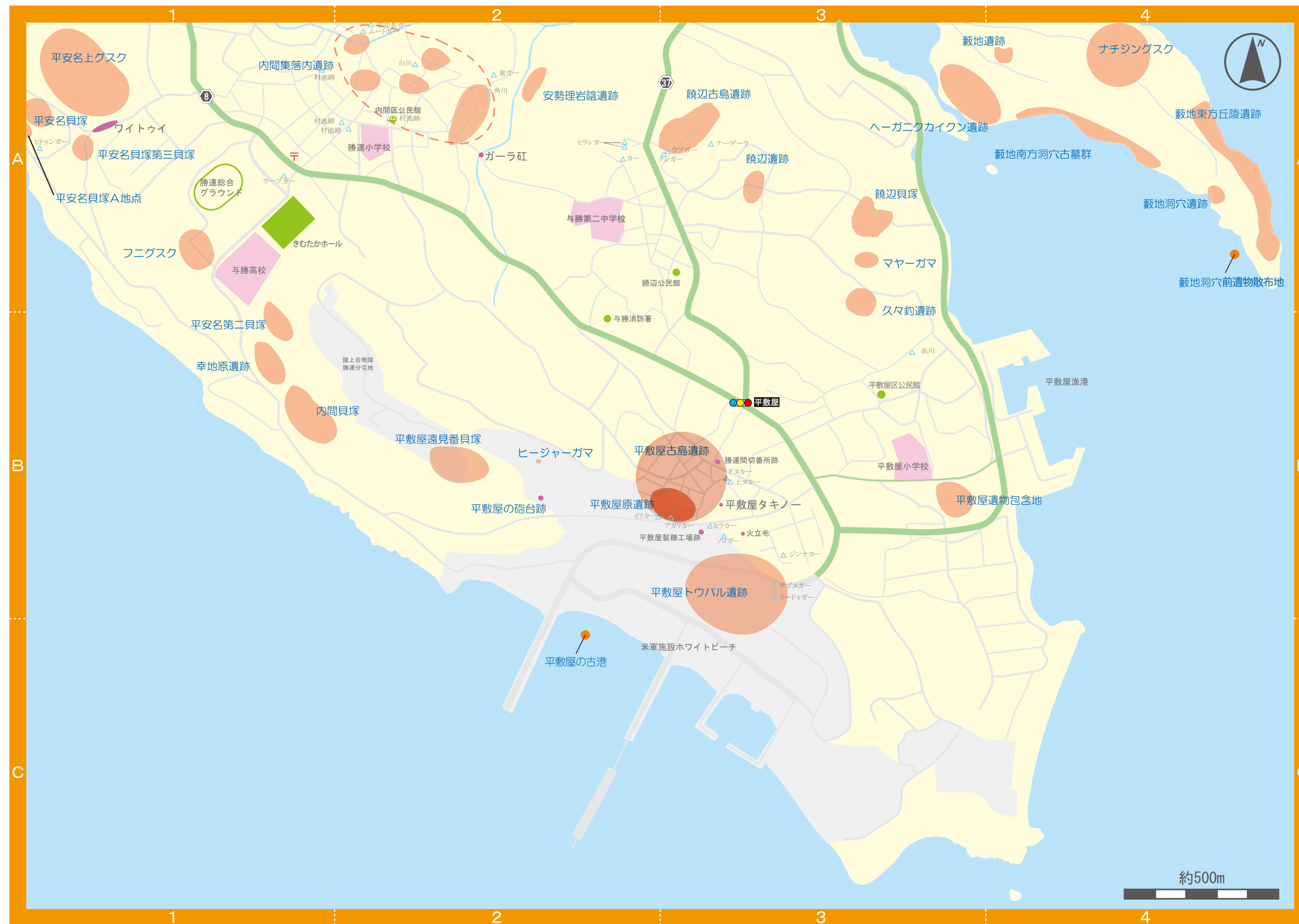


鉄の鎧



皮の鎧

発見された鎧



地図記号： 遺跡 ほかの文化財 公共施設 学校 湧水・井戸（カー）

平敷屋トウバル遺跡

在沖米軍施設ホワイトビーチ内にあり、中城湾に面した低砂丘地に立地しています。

これまでの調査で、集落跡を思わせる柱穴群や九州との交易品と考えられる大型巻貝の集積遺構などを検出しました。また、土器、石器、貝製品などが多数出土したことで、縄文時代後期（沖縄貝塚時代前期）～グスク時代の複合遺跡であることが判明しました。



出土したときの土器の状態

2006（平成18）年に実施された発掘調査では、縄文時代後期に相当する竪穴式住居跡や土抗群が良好な状態で検出され、遺物では縄文時代中期（沖縄貝塚時代前期）の条痕文系土器が出土し、遺跡の時期が古くなることが明らかになりました。



平敷屋トウバル遺跡出土の土器



平敷屋トウバル遺跡出土の貝製品
左：貝刃 右：貝さじ

饒辺古島遺跡



県道37号線を屋慶名から登ってくと右手の畑地一帯に広がる遺跡です。中国産陶磁器やグスク系土器、陶質土器陶器片などが出土しました。近世の時期に形成されていた古い集落跡と考えられています。

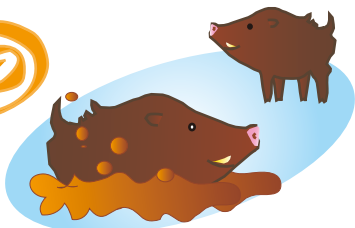
ガーラ砦（市指定建造物）

1928（昭和3）年に、与那城尋常高等小学校へ通う饒辺集落の学童の通学路として、ガーラの山林を切り通して建設された石砦です。



石砦は高さ5m、幅2m、長さ5mの石だけで造られたアーチ型になっています。砦の上から通行人などが通って重圧をかければかけるほど石砦がしまり、ますます堅固になるように造られています。

平安座島 浜比嘉島



はま 浜貝塚

浜集落の南半分から南の山の麓まで広く分布する弥生～平安並行期(沖縄貝塚時代後期)の貝塚です。

旧浜中学校の体育館建設工事中に人骨が見つかり、注目されました。その後、周辺道路の整備工事に伴い緊急発掘調査が行われています。



発見された人骨は頭がい骨がありませんでしたが、その他は完全な形で残っていました。あぐらをかいた状態で両足がくまれており、頭は南向きで埋葬されていました。人骨の下には軽石が敷き詰められており、左側の腰付近からは副葬品の小さな刀が見つかりました。その他の副葬品はみつかっておらず、弥生～平安並行期の人だと考えられています。

発見された埋葬人骨

この貝塚からはその他に土器、石器、貝製品、獣魚骨なども採集されました。

はま ひ が 浜比嘉はちまん洞窟遺跡

旧比嘉小学校北側の丘陵上にある洞窟遺跡です。洞窟内の中央に高さ約60cmの鍾乳石があります。この鍾乳石には自然にできたとみられる珍しい模様があり、今から12000年も前に一夜にして海に沈んでしまったと伝えられるアトランティス大陸の太陽神の模様に似ているということで話題になりました。

ホラガイ製品や国頭地域の自然石で加工された打製石器などが採集されています。旧石器時代の遺跡とされていますが、現在のところ明確にはされていません。



洞窟内の鍾乳石

鍾乳石の模様

はま 浜グスク



浜グスクの石垣

「イリグスク」とも呼ばれており、浜集落を見下ろせる位置に築かれています。集落の北側の崖部分に野面の石垣があり、南東の崖の面に古墓があります。グスク内には北側と南側で2mほどの落差があり、2つの郭からなっています。グスク土器や陶器、須恵器などが出土しています。

へん ぎ イリ 平安座西グスク(市指定史跡)

集落の後方、島のほぼ中央部に位置し、島で最も高い所(標高115m余)の琉球石灰岩上にあり、南西側は断崖となっています。

野面石積みの石垣がめぐらされ、面積は約30,000㎡です。築城年代は不明ですが、グスク内には祠があり、地域の重要な拝所となっています。出土遺物の中には鉄製の刀子が含まれていました。



平安座西グスク内の拝所

ユ サ チ ガー 与佐次川(市指定有形民俗文化財)

平安座島では、「産井ガ-」とも呼び、子どもが誕生した際には、初水として汲んできました。

また正月3日には、門中一族がユサチガ-に集まり子孫繁栄、無病息災を聖泉に祈願する「ウビナディー」は、由緒ある伝統行事として平安座島の人々の心のよりどころとなり代々続いています。



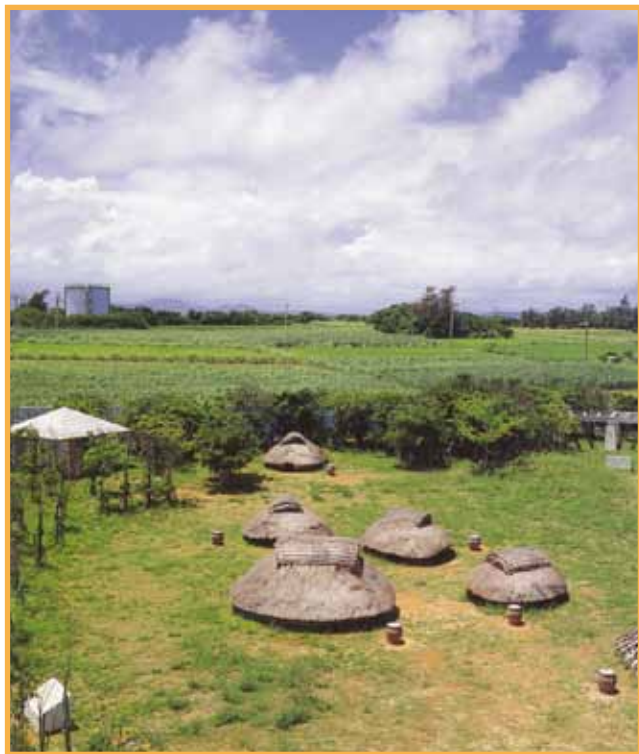
地図記号: 遺跡(赤) その他の文化財(紫) 公共施設(緑) 学校(桃) △湧水・井戸(カー)

約500m

宮城島 伊計島



なかばる
仲原遺跡 (国指定史跡)



復元された竪穴式住居跡

伊計島の中央からやや西寄りに位置し、縄文時代晩期（沖縄貝塚時代中期）の集落跡（ムラあと）です。

発見された遺構は11基で、石囲いの竪穴式住居跡です。規模は径が5～6mの広さを持つ大型の建物と2～3mの小型の建物の2種類が発見され、大型の建物が母屋と思われます。

石器が比較的豊富に出土しており、特に石斧は保存状態のよいものが多数あります。ジュゴンの骨を利用したかんざしや、サメの歯に穴を開けて作った装飾品、仲原式土器と呼ばれる土器なども出土しています。

この遺跡の発見によって、これまで不明であった約2500年～2000年前の沖縄の集落の広がりがや住居の大きさ、造りなどが明らかになりました。現在は、竪穴式住居跡が復元されています。



仲原式土器
(沖縄県教育委員会蔵)



サメ歯製垂飾品
(沖縄県教育委員会蔵)



石斧
(沖縄県教育委員会蔵)



シヌグ堂遺跡



チャート石の鏃
(沖縄県教育委員会蔵)



竪穴式住居跡 (沖縄県教育委員会蔵)

宮城島の標高約100mの台地に、40軒を超える竪穴式住居跡が発見されました。調査の結果、縄文時代晩期頃（沖縄貝塚時代中期）の沖縄県最大の集落跡（約30,000m²）とわかりました。竪穴式住居跡のほか、礫床住居跡、土器、石器、貝製品、骨製品などが発見されました。

東側の崖下には宮城島最大の湧き水であるヤンガーがあり、遺跡に暮らしていた古代人にも重要な場所であったと考えられます。現在は埋め戻しをして遺跡を保存しています。

高嶺遺跡

宮城島で一番標高の高いところにあります。縄文時代晩期頃（沖縄貝塚時代中期）の集落跡で、同じ宮城島内にあるシヌグ堂遺跡からは約700m離れています。

礫床住居跡、竪穴式住居跡がみつかり、土器を主に、石器、骨製品、貝製品が出土しています。遺跡内には「火立毛」の跡だといわれる石碑があります。



発掘調査の様子



遺跡内の石碑

伊計グスク



伊計島に隣接する岩山で「イチーグシク」とも呼ばれています。現在は伊計島との間に砂州が形成され、陸続きになっていますが、以前は海上に浮かぶ独立した小島であった可能性が高いとされています。

グスクは傾斜の急な石灰岩の丘陵に築かれています。最高所は約49mで、東側から西側にかけて野面積みの石積みが良く残っています。1979（昭和54）年の調査では、中国製の輸入陶磁器やグスク土器、カムイヤキなどが出土しています。

沖縄諸島と奄美諸島の土器のうつりかわり

今からどれくらい前か	時代区分		沖縄諸島出土の主な土器型式	九州・奄美諸島の土器型式	沖縄諸島の主な土器	うるま市の主な遺跡	沖縄現行編年																	
12000 年前	縄文時代	草創期	<p>のぐに野国第4群</p> <p>ヤブチ式土器 あがりぼる東原式土器</p>	つめたもん 爪形文土器	<p>爪形文土器</p>	<p>藪地洞穴遺跡</p> <p>平敷屋トウバル遺跡（最下層）</p> <p>古我地原貝塚</p> <p>伊波貝塚 平敷屋トウバル遺跡（下層） 平安名貝塚 石川貝塚 津堅キガ浜貝塚 伊計貝塚</p> <p>地荒原貝塚</p> <p>シヌグ堂遺跡 隅原遺跡 高嶺遺跡 地荒原遺跡</p> <p>平敷屋原遺跡 津堅第三貝塚 仲原遺跡</p> <p>宇堅貝塚 平敷屋トウバル遺跡（上層）</p> <p>津堅第二貝塚</p> <p>浜貝塚 津堅貝塚 具志川グスク崖下地区（下層） アカジャンガー貝塚 勝連城南貝塚</p> <p>伊計貝塚 藪地貝塚 桃原貝塚 前頂原遺跡</p> <p>勝連城跡 喜屋武グスク 具志川グスク 伊波城跡 安慶名城跡 伊計グスク 平安座西グスク 平敷屋古島遺跡 南風原古島遺跡</p>	貝塚時代	早期																
7000 年前		早期							曾畑式土器 条痕文土器 むろかわかそう室川下層式土器 神野A式土器 神野B式土器	そばた 曾畑式土器	<p>条痕文土器 室川下層式土器</p>	貝塚時代	前期											
5000 年前		前期	面縄前庭I式土器 面縄前庭II式土器 面縄前庭III式土器 面縄前庭IV式土器 面縄前庭V式土器	おもなわげんでい 面縄前庭式土器	<p>面縄前庭式土器</p>				貝塚時代	中期														
3500 年前		後期	仲泊A式土器 仲泊B式土器 神野D式土器 神野E式土器 伊波式土器 おぎどう 狄堂式土器 大山式土器 むろかわ 室川式土器	おもなわとうどう 面縄東洞式土器 いずみ 出水系土器 いちま 市来式土器 かたく 嘉徳I式土器 嘉徳II式土器	<p>仲泊式土器 伊波式土器</p> <p>大山式土器 室川式土器 狄堂式土器</p>						貝塚時代			後期										
3000 年前		晚期	カヤウチバンタ式土器 むろかわじょうそう 室川上層式土器 うごはま 宇佐浜式土器 なかばる 仲原式土器	きねん 喜念I式土器 うしゆくじょうそう 宇宿上層式土器	<p>宇佐浜式土器 仲原式土器</p>										貝塚時代	後期								
2500 年前			前期	あはれんうらかそう 阿波連浦下層式土器 はまやばる 浜屋原式土器	いたつけ 板付II式土器 かめ 亀ノ甲類似土器												<p>阿波連浦下層式土器 浜屋原式土器</p>	貝塚時代	後期					
2000 年前		弥生時代	中期	山ノ口式土器	<p>山ノ口式土器</p>												貝塚時代			後期				
			後期	うふとうぼる 大当原式土器 くしぼる 具志原式土器 アカジャンガー式土器	めんた 免田式土器																<p>大当原式土器</p> <p>アカジャンガー式土器</p>	貝塚時代	後期	
			古墳時代 ↓ 平安時代	フェンサ下層式土器	フェンサ下層式土器																<p>フェンサ下層式土器</p>			貝塚時代
1000 年前		鎌倉時代 ↓	フェンサ上層式土器	フェンサ上層式土器	<p>フェンサ上層式土器</p>																貝塚時代			
	グスク時代		グスク時代	グスク時代	グスク時代	後期																		
およそ 500 年前																								

沖縄県立埋蔵文化財センター、『沖縄県史』を参考に作成

参考文献

- 1978『具志川市遺跡 分布調査概報』具志川市教育委員会
- 1983『勝連城跡-昭和56年度本丸南側城壁修復に伴う遺構発掘調査報告-』勝連町教育委員会
- 1985『シヌグ堂遺跡-第1・2・3次発掘調査報告-』沖縄県教育委員会
- 1986『石川市の遺跡』石川市教育委員会
- 1987『石川市古我地原貝塚 本文編-沖縄自動車道(石川～那覇間)建設工事に伴い緊急発掘調査報告書6-』沖縄県教育委員会
- 1987『石川市古我地原貝塚 図版編-沖縄自動車道(石川～那覇間)建設工事に伴い緊急発掘調査報告書6-』沖縄県教育委員会
- 1988『与那城村の遺跡-詳細分布調査報告書-』与那城町教育委員会
- 1989『宮城島遺跡分布調査報告』沖縄県教育委員会
- 1991『具志川市の文化財 第1集-埋蔵文化財編-』具志川市教育委員会
- 1991『平敷屋古島遺跡-発掘調査報告書-』勝連町教育委員会
- 1993『具志川市の文化財 第3集-大門森古墓群(銘苅門中神墓)調査概報-』具志川市教育委員会
- 1993『勝連町の遺跡-遺跡詳細分布調査報告-』勝連町教育委員会
- 1996『平敷屋トウバル遺跡-ホワイトビーチ地区内倉庫建設工事に伴う緊急発掘調査報告書-』沖縄県教育委員会
- 1997『アカジャンガー貝塚-具志川幼稚園園舎建築に伴う発掘調査速報-』具志川市教育委員会
- 1997『史跡仲原遺跡-保存整備事業報告書-』与那城町教育委員会
- 2001『喜屋武グスク-発掘調査速報-』具志川市教育委員会
- 2001『町内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財調査報告書 平成11・12年度-津堅貝塚 平敷屋古島遺跡 浜貝塚-』勝連町教育委員会
- 2002『沖縄県戦争遺跡詳細分布調査Ⅱ-中部編-』沖縄県教育委員会
- 2003『具志川市の文化財 第5集-ジョー(門)ミーチャー墓調査概報-』具志川市教育委員会
- 2003『沖縄県史 -各論編2 考古-』沖縄県教育委員会
- 2004『伊波丘陵周辺遺跡分布調査』石川市教育委員会
- 2004『町内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財調査報告書 平成13・14年度-平敷屋トウバル遺跡 津堅キガ浜貝塚 津堅貝塚 南風原古島遺跡-』勝連町教育委員会
- 2005『石川市の文化財ガイド』石川市教育委員会
- 2005『津堅貝塚-中城港湾(アギ浜地区)港湾改修事業に伴う緊急発掘調査報告書-』勝連町教育委員会
- 2006『うるま市内石川地域遺跡詳細分布調査』うるま市教育委員会
- 2006『市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 平成17年度-平敷屋古島遺跡・大田貝塚・平敷屋トウバル遺跡-』うるま市教育委員会
- 2006『具志川グスク1-発掘調査報告概報-』うるま市教育委員会
- 2016『うるま市文化財要覧』うるま市教育委員会



遺跡名索引

あ	アカジャンガー貝塚	P20.B-3	<small>しるべ</small> 江洲印部土手遺跡	P22B-1	地荒原貝塚	P19.C-2	東恩納白土原遺物散布地	P12B-3
	赤道モ一跡	P26.C-2	江洲古島遺跡	P22B-2	チャーグチ避難壕群	P10.C-1	東恩納高平原遺跡	P12B-4
	赤山遺跡	P43B-2	お 大あぶ洞窟遺跡	P39.C-3	つ 津堅貝塚	P47.C-3	東恩納後原遺物散布地	P12B-3
	安慶名城跡	P14.C-2	大あぶ洞窟北隣の洞窟遺跡	P39.C-3	津堅神山遺跡	P47B-2	東恩納ヌール墓	P11.C-3
	安勢理岩陰遺跡	P35.A-2	大兼久遺物散布地	P43B-2	津堅キガ浜貝塚	P47B-3	東恩納ノ口殿内周辺遺物散布地	P11B-3
	アタナジ洞貝塚	P24B-4	大田貝塚	P24.A-4	津堅国森御嶽遺跡	P47B-2	東恩納美川原遺跡	P12B-3
	アムジガマ	P43B-3	大田洞穴遺跡	P24.A-4	津堅第三貝塚	P47.C-2	東恩納美原遺跡	P12B-4
	新川グスク	P47B-2	大田の指揮所跡	P24B-4	津堅第二貝塚	P47.C-2	東恩納前御嶽周辺遺物散布地	P11.C-3
	新川クボウグスク周辺障地壕群	P47B-2	か ガーラ缸	P35.A-2	津堅泊浜遺物包含地	P47B-2	東恩納博物館跡	P11B-3
い	イクン山遺跡	P43B-2	化石人骨出土地	P43.A-3	津堅港原遺跡	P47.A-3	比嘉小学校東方遺跡	P39B-3
	伊計大泊遺跡	P43.A-3	勝連城跡	P30B-1	津堅ヤジリ浜貝塚	P47.A-3	日奈田遺跡	P43B-2
	伊計貝塚	P43B-3	勝連間切番所跡	P35B-3	津堅和名浜貝塚	P47B-3	ふ 深川遺跡	P43B-2
	伊計グスク	P43.A-3	勝連役場の壕	P31B-2	て デーンバル遺物散布地	P43.C-2	フニグスク	P31.C-2
	伊計グスクの障地壕	P43.A-3	<small>カチンラバル</small> 加天良原貝塚	P19.C-3	天願貝塚	P15B-3	へ ヘーガニクカイクン遺跡	P32B-4
	伊計島大砲障地跡	P43.A-3	嘉手苅観音堂周辺遺物散布地	P6B-1	天願グスク	P15B-3	平敷屋遺物包含地	P36B-3
	池味貝塚	P43B-2	カニダガマ	P43.C-2	天願原遺跡	P15B-3	平敷屋製糖工場跡	P35B-3
	池味集落北貝塚	P43B-2	兼箇段後原古墓群	P27.A-2	と 桃原貝塚	P43.C-2	平敷屋トウバル遺跡	P35B-3
	池味祝女殿の魚垣	P43B-2	兼箇段グスク	P27.A-3	桃原の古港	P43.C-2	平敷屋遠見番貝塚	P35B-2
	石川佐阿手原洞穴内遺物散布地	P6B-2	カンジャーピラのガマ	P10B-1	特攻艇の秘匿壕跡	P12B-4	平敷屋の古港	P35.C-2
	石川ウフガチ古墓群	P8.C-4	き 喜舎原遺跡	P14B-2	<small>トウマイ</small> 泊グスク	P43B-3	平敷屋の砲台跡	P35B-2
	石川貝塚	P6B-1	喜名遺物散布地	P43B-2	ながさくばる 長佐久原貝塚	P19.C-3	平敷屋原遺跡	P35B-3
	石川南貝塚	P6B-1	喜屋武グスク	P23B-2	なかばる 仲原遺跡	P43.A-3	平敷屋古島遺跡	P35B-3
	イナガミムイ古墓群	P10B-1	旧津堅島灯台跡	P47.C-3	仲嶺のマヤーガマ	P18.C-2	平安座東グスク	P39.A-3
	伊波按司の墓	P10B-1	旧天願橋	P15B-2	なかやぶち 中藪地遺跡散布地	P32B-4	平安座東ハンタ原遺跡	P39.A-3
	伊波貝塚	P7.C-2	旧日本軍砲台障地跡	P24B-4	ナチジングスク	P32B-4	平安座西グスク	P39.A-2
	伊波貝塚周辺遺物散布地	P7B-2	く クーグスク	P16.C-4	ナン 南グスク	P43B-2	平安座貝塚	P39.A-2
	伊波丘陵崖下古墓群	P6A-1	くくつり 久々釣遺跡	P35.A-3	に ニームトゥヤー遺物散布地	P43B-2	平安座の古港	P39.A-3
	伊波後原遺跡	P7B-2	具志川グスク	P20.C-4	にがましほる 苦増原遺跡	P23.A-3	平安名上グスク	P30B-2
	伊波城跡	P6B-2	具志川グスク海岸遺物散布地	P20.C-4	にしくしほる 西後原散布地A地点	P43.A-3	平安名貝塚	P30.C-2
	伊波城跡城郭外北地区	P6B-2	具志川グスク内の壕	P20.C-4	ヌー 野グスク	P31B-2	平安名貝塚A地点	P30.C-2
	伊波城跡の機関銃台座跡	P6B-2	具志川の海軍砲台跡	P19.C-3	のへん 饒辺遺跡	P35.A-3	平安名第三貝塚	P30.C-2
	伊波城跡北西遺跡	P6B-1	クバ島遺跡	P39.C-3	饒辺貝塚	P35.A-3	平安名第二貝塚	P31.C-2
	伊波シラヒバル古墓群	P6B-1	クボウグスク	P47B-2	饒辺古島遺跡	P35.A-3	平安名の住民避難壕	P31B-2
	伊波タカウハカ上方周辺遺物散布地	P6B-1	クルカーガマ	P43.A-3	すひな 南風原潮辺遺跡	P30B-1	ま マヤーガマ	P35.A-3
	伊波仲門北方ピンジリ周辺遺跡	P7.C-2	こ 幸崎の構築壕	P22.C-2	南風原古島遺跡	P30B-1	み ミーハンチャー洞窟遺跡	P39B-3
	伊波ノ口殿内西方遺物散布地	P6B-1	こうちばる 幸地原遺跡	P31.C-2	浜貝塚	P39B-2	水玉栄原遺跡	P15B-3
	伊波原遺跡	P10.A-2	こがちばる 古我地原貝塚	P6A-1	浜グスク	P39B-2	宮城遺跡	P43B-3
	伊波東遺跡	P7.C-2	護岸の銃座	P24.C-4	浜グスク東南畑遺物包含地	P39B-3	宮城遺跡北遺物散布地	P43B-3
	伊波ヒチャミチグワー墓周辺遺物散布地	P7.C-2	昆布貝塚	P14.A-1	浜集落の礎石	P39B-2	宮城港周辺遺物散布地	P43B-3
	伊波フシサ洞穴遺物散布地	P6B-1	し 志々神原古墓群	P28.C-3	浜桃原遺跡	P39B-2	め 前頂原遺跡	P19B-3
	伊波 ^{ムーバル} 前原古墓群	P6C-1	獅子山古墓群	P14.C-1	浜ナゴーマチ手遺跡	P39B-3	や 屋慶名の防空壕	P31B-3
	西門原遺跡	P19B-2	シヌグ堂遺跡	P43.C-2	浜の古港	P39B-2	藪地遺跡	P32B-4
	西原遺跡	P43B-2	下与佐次遺物散布地	P39.A-3	なかつたき 浜比嘉中の御嶽洞窟遺跡	P39B-3	藪地貝塚	P32B-4
	西原散布地A地点	P43.A-3	ジョーミーチャー墓	P27.A-2	浜比嘉はちまん洞窟遺跡	P39B-3	藪地洞穴遺跡	P32.C-4
う	上江洲貝塚	P19.C-2	しんやま 神山遺跡	P43.A-3	浜比嘉浜川洞窟遺跡	P39B-3	藪地洞穴前遺物散布地	P32.C-4
	上江洲古島遺跡	P24B-3	すみはる 隅原遺跡	P14.A-2	浜要川丘陵洞窟遺跡	P39.C-2	藪地東方丘陵遺跡	P32.C-4
	宇堅貝塚	P16.C-4	すみよう ベーテン 数明親雲上の墓	P10.A-2	浜吉田川の上洞窟遺跡	P39B-3	藪地南方洞穴古墓群	P32.C-4
	ウシトラガマ	P43.A-3	そなんぼし 楚南缸	P10.C-1	ひ ヒージャーガマ	P35B-2	山城御嶽周辺遺物散布地	P10B-1
	内間貝塚	P31.C-2	た 高江洲古島遺跡	P23B-2	比嘉大川遺跡	P39.C-3	山城原古墓群	P10B-1
	内間集落内遺跡	P31B-2	高嶺遺跡	P43.C-2	比嘉兼久上原遺物包含地	P39.C-3	ユサチガー 与佐次河	P39.A-3
	ウフジョウマイ 大門森古墓群	P27.C-2	タカヤブチ遺物散布地	P32B-4	比嘉兼久西丘陵遺物包含地	P39.C-3	よ 吉本家の弾痕	P39B-3
	ウフタヒラ 大田坂	P24B-4	田場遺跡	P19B-3	比嘉グスク	P39B-3	与那城監視哨跡	P31B-3
	ウミナイ墓	P7B-3	田場小学校南方遺跡	P19B-2	東恩納青木原遺物散布地	P11.C-3	れ 霊化森の障地跡	P15B-3
え	江洲グスク	P22B-1	ち 地荒原遺跡	P19.C-2	東恩納西原遺物散布地	P11B-3		